

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

戦後80年 日本国憲法生きる 核も戦争もない未来つくろう 軍事強化、核の威嚇許されない

終戦記念の日、不戦の誓い

日本による侵略戦争と植民地支配の終結から80年を迎えた8月15日、日本共産党の松

江市議団（たしばなふみ団長）、尾村利成県議、亀谷優子党県常任委員らがカラコロ広場近くで宣伝し、不戦の誓いの決意を述べました。

尾村氏は、侵略戦争への反省を欠いた勢力が憲法9条を敵視し、アメリカ言いなりに危険な「戦争国家づくり」を進めていると指摘。「再び戦争の惨禍を繰り返さないために、憲法を生かした政治をみんなで作ろう」と呼びかけました。

尾村氏は「ロシアによるウクライナ侵略で核の威嚇がやまない中、石破首相は長崎を最後の被爆地にと世界に発信した。日本政府は核兵器禁止条約に参加を。戦争の準備ではなく暮らし福祉に予算を。憲法が生きて一人ひとりが大切にされる社会へ声を上げていく」と訴えました。

樋野伸一氏は祖父が戦死し両親が苦労した経験から戦争は何代も続く苦勞を強いると「孫や子の世代まで平和を貫き通す」と述べ、佐野みどり氏は日赤で働き、従軍看護士を二度と産まないと活動してきた経験に触れ「武力ではなく、話し合いでの解決を訴えていく」と決意を述べました。

亀谷氏は「憲法9条の理念を守り抜く政治が今こそ必要」と強調しました。



決意を述べる亀谷氏と尾村利成県議、松江市議団

被ばく80年の長崎を訪れて

松江市議会議員 たしばなふみ

被ばく80年の節目に、中学1年の子どもを連れて長崎を訪れました。9日に行われた日本原水協の原水爆禁止2025世界大会に参加、大会は「長崎を最後の被爆地に!」との決意に満ちていました。

私の長崎の旅は、大会参加と共に、被ばくの実相を語り継ぐ朗読劇「この子たちの夏1945ヒロシマ・ナガサキ」で読み語った実際の地を訪れるという目的もありました。松江市出身で、自らも被ばくしながら被爆者医療に携わり数々の作品を遺した永井隆博士の報告書にある、爆心地浦上、稲佐山、山里小学校。また平和記念式典で子どもたちが合唱した「クスノキ」のモデルとなった山王寺の片足鳥居や大クスも訪ねま

した。9日は早朝から天主堂や爆心地公園で皆が祈っていました。

平和式典で石破首相は永井博士の言葉「願わくばこの浦上をして世界最後の原子野たらしめたまえ」を引用し世界に発信しました。

長崎からのよびかけは「人間らしく生きたいと願うすべての人びとと手を携え、人間の尊厳と平和な未来のための壮大な共同をつくり出しましょう」と訴えています。

ノーベル平和賞を受賞した被団協と原水協、原水禁による国民運動のよびかけに心え、私も多くの皆さんとの共同をつくりだす一員としてこれからはがんばりたいと強く思いました。



平和の鐘で有名な浦上天主堂にて

平和の波2025 松江市内で多彩な取り組み

被ばく80年のこの夏、原水爆禁止島根県協議会がよびかけ平和の波2025行動が市内各地で取り組まれました。

市内の寺院では「平和の鐘」行動が取り組まれました。8月6日は広島に原爆が投下された時間である8時15分、9日は長崎に投下された時間である11時2分に市内各地の寺院で鐘を撞き、核兵器廃絶を祈る行動です。両日とも、洞光寺、満願寺などの住職の協力で、核兵器廃絶祈願のお経をあげながら鐘を突き、ご詠歌を披露されたところもありました。6日は県庁前で8時

15分に市民が集い祈りました。その他、新日本婦人の会を中心には5月から連続して市内各地の公民館などで「原爆パネル展」を開催しています。これまで県民会館、いきいきプラザ、八束公民館、松江生協病院、東出雲公民館、八雲公民館で開催しました。また地域ごとに児童クラブのこどもたちを招いて平和まつりを開催し、映画「つるにのって」鑑賞や折鶴づくりをするなど多彩な取り組みが行われました。

原水爆禁止世界大会には広島・長崎あわせて島根県から80名が参加し、加盟団体や市民から託された折り鶴を捧げました。核兵器のない平和で公正な世界をめざす運動が広がっています。



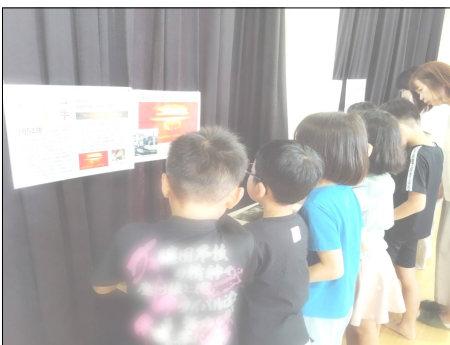
折り鶴を届けました



県庁前で6日8時15分につどい



地域の方と平和の鐘撞



原爆パネルをみるこどもたち